日本共産党 ９月議会報告

伊勢崎市議団ニュース

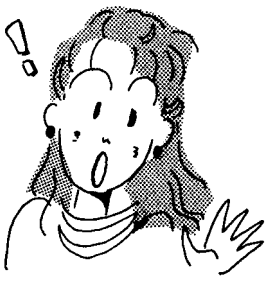
2026 年秋号




須藤ひろみち 090-5775-8626
はせだ公子 070-5564-6271
ご意見ご要望は sigidan@jcp-isesaki.net

一般会計決算 ISECA(イセカ)50%プレミアムキャンペーン

約２億５千万円を市外の人にプレゼント?!

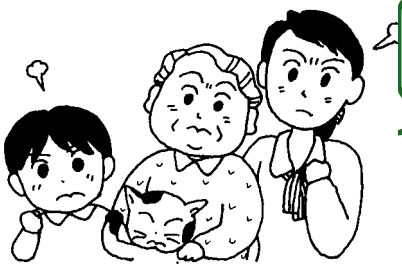


昨年度、市は国から来た交付金と基金を使い、32 億円・24 事業の物価高騰対策を実施。

小学生給食費無償化の １ 月からの前倒し実施や、水道の基本料金免除（3～6 月）、事業者・農業者支援など、日本共産党市議団が求めた事業ももり込まれましたが、電子地域通貨 ISECA 関連の３事業だけで 16 億円と半分を占めました。目玉が、上限４万円までチャージでき、50%のポイントがつく事業でした。

市外の人もチャージできたので、35%のポイントはそちらに流れました。市は、「使うのは市内だから問題ない」といいましたが、チャージできなかった多くの市民の怒りを買い、結局市民の貯金から６億５千万円おろして、市民限定のキャンペーンも行うハメに。

党市議団は「今後の物価高騰対策は ISECA 偏重を改め、市民の声を聞き改善を」と、求めました。



チャージできない市民が沢山出たのに、なぜ市外に？！

そもそもお金がない人はチャージできない!!一番助けて欲しい人がカヤの外？

ISECA に慣れない市民の半分は相手にされてない。物価高騰対策にもう ISECA は使わないで！

くわまるタクシー利用者８割は旧市内、不公平是正にデマンド交通導入を！

タクシー代助成のくわまるタクシーで高齢利用者の内訳を聞いたら、旧市内 77.8%、境地域 11.7%、あずま地域 5.7%、赤堀地域 4.7%と、旧市内以外ではとても使いにくいことがわかりました。年 72 回の補助も、通院が多い人はすぐに終わってしまいます。

党市議団は「くわまるタクシーは補助回数増と補助率アップを」、「利用率が低い地域は電話１本で迎えに来て目的地まで運ぶデマンド交通の実施を」と、提案しました。

無料生活法律相談会

毎月第4月曜日午後6時～
市議会議員と弁護士が応談
お申し込みは日本共産党市議へ



新保健センターは機能アップめざし統合したものの受診率下がる

旧町村部の保健センターを廃止し、旧市内の福島病院跡地に統合。「機能を強化するから１ か所で大丈夫」といっていましたが、実際には乳幼児健診やがん検診などの受診率は横ばいか減少という結果になりました。

「建物を新しくするだけでなく、職員体制や業務の充実こそ進めて」と指摘しました。

３歳未満児保育料完全無償化を

県下３５市町村中、渋川市・みどり市など１６市町村が実現しています。

９月から太田市が、10 月から高崎市が半額に。前橋市は来年度から一定所得以下の世帯は６割、その他も１万５千円を上限に補助することになりました。「伊勢崎市でもぜひ実現を」と声を上げていきましょう。